

I-8 避難訓練実施計画

【高台への避難経路確認（1年）】

0 はじめに

本校は東日本大震災時、6mを超える津波の襲来で校舎2階床下まで浸水した。
仮設校舎から本校舎へ戻ってきた際に、津波注意報以上が発表された場合には前回を超える津波が来るかもしれない最悪の事態を想定し、三次避難先として校舎よりも高い大門崎公園を設定した。

1 目的

- (1) 健康で安全な生活のため、非常災害時においても、冷静、沈着、適切な判断により、敏速に行動できる態度を身に付ける。【自主】
- (2) 生命の安全を第一と考え、統制の取れた集団行動で避難できるようにするとともに、災害の恐ろしさについての認識を深め、自助、共助、公助の精神を養う。【敬愛】
- (3) 学校にいる際に津波注意報・警報が発令された場合の三次避難場所(高台避難)を認識し、災害時に備えられるようにする。【健康】

2 期 日 令和7年4月15日(火) 6校時

3 対 象 1学年生徒・教職員、転入教職員

4 実施計画

(1)事前指導…以下の点について確認、指導する。

①東日本大震災時の湊中の被害状況について

(津波が到達した高さ、震災後は他校の間借りや仮設校舎で生活していたこと等)

※津波到達高さについては校舎脇非常階段に表示あり。その他共有フォルダに震災時の写真あり
Yフォルダ→49防災・安全→防災→H31-R1→震災関係

②災害時の避難の仕方について(建物内では「押さない」「走らない」「しゃべらない」「戻らない」「お・は・し・も」を守り、高台までも慌てずに避難する。※避難時の怪我や事故の防止)

③二次避難(教室待機)、三次避難(大門崎公園又は校舎4階)における避難場所と避難経路について

④活動に臨む態度について(真剣、安全、静粛)

⑤避難後(高台到着後)の行動について

→災害時に高台避難をした場合は、学年ごとに整列し、教師の姿が見えるように速やかに座って次の指示を待つ。※生徒は海側に背を向けるようにして座らせる。

(2)本時の流れ

①6校時開始後、事前指導事項を確認し、担任の指示のもと昇降口前に整列する。

②担任誘導のもと、避難経路を確認しながら大門崎公園まで上る。

③大門崎公園到着後、実際の避難時に心掛けることなどを確認する。

④担任誘導のもと、安全に気を付けて帰校する。

(3)事後指導…学級に戻ってから活動について振り返り、以下の点について確認・指導する。

①避難経路について振り返る。

②実際の避難時の課題などについて確認する。(道路環境、交通状況など)

③今後の訓練(予定)について確認する。

【地震・津波想定避難訓練】

1 目 的

- (1) 健康で安全な生活のため、非常災害時においても、冷静、沈着、適切な判断により、敏速に行動できる態度を身に付ける。【自主】
- (2) 生命の安全を第一と考え、統制の取れた集団行動で避難できるようにするとともに、災害の恐ろしさについて認識を深め、自助、共助、公助の精神を養う。【敬愛】
- (3) 学校にいる際に津波注意報・警報が発表された場合の三次避難場所(高台避難)を認識し、災害時に備えられるようにする。【健康】

2 期 日 令和7年5月19日(月) 放課後(15:30~)

3 対 象 全生徒、教職員

4 災害想定

令和7年5月19日(月)15時20分、宮城県沖を震源とするM8.0、石巻の最大震度7の大地震が発生。学校周辺でも家屋の倒壊や地割れ等の被害が出ていると予想される。校舎は耐震構造のため倒壊の危険は無く、校地内巡視をしても危険は認められなかった。しかし、宮城県沿岸全域に大津波警報が発表されたため、高台への避難を決定した。

5 実施計画

- (1) 事前指導…下記の点について学級で確認、指導する。 ※5/7の防災タイム活用

- ①校舎内の避難経路及び、教室から高台(大門崎公園)への避難経路について
- ②訓練に臨む態度について(真剣、安全、敏速、静粛)
- ③避難の仕方について(建物内では「押さない」「走らない」「しゃべらない」「戻らない」〈お・は・し・も〉を守り、高台までも慌てずに避難する。※避難時の怪我や事故の防止)※避難指示開始から報告完了までの目標時間10分
- ④避難後(高台到着後)の行動について(避難後は学級ごとに整列し、教師の姿が見えるように速やかに座って次の指示を待つ。)※高台避難時は、生徒は山側を向かせ、津波が見えないように配慮する。

(2) 訓練の流れ

時刻	訓練の流れ	生徒の動き	担任(教科担任)の動き	その他の教職員の動き	備考
14:30	帰りの会 開始	・通常通り帰りの会を実施する。	・地震・津波の際の避難経路や避難時の態度について再度指導・確認する。	・通常通り、それぞれの業務を行う。	
14:35	地震発生		・教職員は、揺れを感じたら直ちにトランシーバーの電源を入れる。揺れが収まったら避難口を確保する。		
	緊急地震速報	緊急地震速報 担当：防災主任			
	一次避難	・一次避難 →机の下に隠れ、揺れが収まるのを待つ。 教師の指示が届くように静粛にする。	・生徒に一次避難の指示を出し、自身も一次避難を行い、身の安全を確保する。揺れが収まったら(音源が止まったら)避難口を確保する。	・身の安全を確保し、揺れが収まったら、職員室へ参集する。 ・主事は防災ラジオをつける。	
	緊急放送Ⅰ ※揺れが収まったら	地震が発生しました。現在、状況を確認中です。安全な場所で一次避難を続けなさい。			
	被害状況の確認		・生徒の状況等を教頭へ報告する。	・教頭の指示の下、分担して校舎内外(避難経路中心)の安全確認と、残留生徒の検索等を行う。	*報告等はトランシーバーを使用する。
14:38	緊急放送Ⅱ	校舎内外の安全を確認した結果、先ほどの地震による校地内への危険はありません。余震等の危険がありますので、ヘルメットを用意して教室で待機しなさい。(2回繰り返す) 担当：教頭			
	二次避難	・教師の指示に従ってヘルメットを用意して教室で待機する。 ◎余震発生の場合は、教師の指示に従って避難行動をとる。	・生徒に、ヘルメットを配り、落ち着いて待機するよう指示を出す。 ・出席簿を用意して次の行動に備える ◎余震発生の場合は、周囲の状況を確認し、生徒に避難の指示を出す。	・学年主任は学年フロアへ向かい、生徒の様子等を確認する。(トランシーバー持参) ・学年主任、学級担任以外の教職員は職員室へ参集して次に備える。 ・教務主任は、携帯型無線電話と非常持ち出し袋の用意をする。 ・用務員は、三次避難場所(大門崎公園)までの避難経路の安全確認を行う。	

14:40	大津波警報 発表		・生徒の様子を観察し、適宜、不安に させないような声掛けを継続する。	・主事は、大津波警報が発表されたこ とを教頭へ報告する。 〔報告順〕主事→教頭→校長 ・校長は、高台への避難が必要と判断 し、三次避難を行うよう教頭へ指示 する。	*防災ラジオからの 情報
	避難指示	大津波警報が発表されました。大門崎公園に避難します。担任の先生を先頭にして避難を始め なさい。 担当：教頭			
	三次避難	・ヘルメットを被り、教師の指示に 従って三次避難する。	・生徒に落ち着いて避難するよう指 示を出し、大門崎公園へ誘導する。 教室に残留生徒がいないことを確認 したら、教室の前後の扉を閉めて避 難	・防災主任は、ラジオを持ち、昇降口 前に向かう。 →1番早く降りてきた学年の先頭に 立ち、安全を確認しながら大門崎 公園に誘導する。 →大門崎公園到着後、防災ラジオを 付けて情報収集をしながら待機す る。 ・学年主任は、学年フロアの最終確認 をしてから避難する。 ・養護教諭は列の最後尾につき、生徒 の体調を確認しながら避難する。 ・学級担任以外の教職員は、学校から 大門崎公園の途中に立ち、生徒の誘 導や安全確認を行う。→最後尾の生 徒と一緒に避難する ・校長は大門崎公園に向かう。 ・養護教諭は救護旗を持ち、大門崎 公園に向かう。 ・教頭、教務は昇降口で待機し、全員 が避難したかどうかを確認する。→ 確認後、大門崎公園に向かう	
14:50	避難完了	・学級ごとに静粛に整列し、教師から の次の指示を待つ。	・生徒の人数と体調等を確認し、学年 主任に報告する。 〔報告順〕担任→学年主任→教頭→校長 ※学年主任がいない場合は、教頭へ直 接報告し、主任が合流後、担任から 主任へその旨を報告する。	・教頭は、校長に避難完了の報告をす る。 ・教頭は、半固定無線装置で市教委へ 避難完了の報告をする。 ・校長は、教頭に職員参集の指示を出 し、生徒や被害の状況について全体 確認する。	
14:54	帰校	・学級担任誘導のもと安全に学校へ戻 る。	・学級担任は、生徒の先頭に立ち、学 校へ誘導する。	・防災主任は、帰校時の注意事項を全 体に確認する。その後、全体の先頭 で帰校する。	*学級ごと2列に なって帰校する。
15:05	振り返り① 指導・講評			・避難指示から報告完了までの時間を 全体に周知する。(防災主任) ・登下校時や在宅時の災害発生時の対 応等について指導する。(防災主任) ・訓練についての講評(校長)	
15:10	振り返り②	・訓練について振り返り、アンケート を記入する。	・学級担任は事後指導を行い、アン ケートを記入させる。	・訓練について振り返り、教職員用ア ンケートを記入する。	*アンケートはタブレッ トを使用する。

(3) 事後指導…学級へ戻ってから訓練について振り返り、下記の点について確認と指導を行う。

①避難の仕方や経路について(「お・は・し・も」は守れたか、避難時に危険と思わせる場所はなかったか。)

②今後の訓練や実際の避難時の課題等について

③家族間での避難の約束事(避難場所や集合場所)や、学校以外での災害時の避難の仕方について

→居住地域にいるときに発災した場合(津波注意報・警報発表時)の避難場所の確認と避難行動の指導

→避難時は、必要最低限の荷物を持ち、海側には戻らず高台を目指すことの再確認

6 確認事項

◆「緊急地震速報」は、タブレットの音源を使用する。

◆非常持ち出し袋に、全生徒分「非常災害用カード(写し)」が入っているか事前に確認する。

◆地震や緊急地震速報等に対して配慮が必要な生徒については、事前に全職員で共通理解を図る。

※1年生は、小学校との引継ぎの際に確認し、配慮が必要な生徒がいる場合には訓練の前に本人と保護者に訓練実施についての確認を取る。

7 係分担

(1) 訓練時

内容	担当
避難指示等	教頭
緊急地震速報	教務
救護旗	養護教諭
携帯ラジオ 持ち出し	防災主任
携帯型無線電話 持ち出し	教務
非常持ち出し袋 持ち出し	教務
生徒誘導	学級担任又は教科担任
検索, 安全点検等	副担任, 主事, 用務員等 ※その時に職員室にいる教職員で振り分ける。
計時	

(2) 訓練後

内容	担当
整列指示	学級担任, 防災主任
司会 (振返り①)	防災主任
事後指導	全体: 防災主任, 学級: 学級担任
講評	校長

【火災想定避難訓練】

1 目 的

- (1) 健康で安全な生活のため、非常災害時においても、冷静、沈着、適切な判断により、敏速に行動できる態度を身に付ける。【自主】
- (2) 生命の安全を第一と考え、統制の取れた集団行動で避難できるようにするとともに、災害の恐ろしさの認識を深め、自助や共助、公助の精神を養う。【敬愛】
- (3) 学校以外の場所で災害に遭っても、訓練を生かして適切な避難行動を選択できる素地を養う。【健康】

2 期 日 令和7年10月3日（金）放課後(14:30～15:20)

3 対 象 全生徒、教職員

4 災害想定

令和7年10月3日（金）14時33分、南校舎1階給湯室から出火。校舎全体に延焼の可能性があるため、全校生徒に屋外への避難指示を出した。

5 実施計画（詳細は後日提示）

(1) 事前指導…以下の点について学級で確認・指導する。（防災タイム活用）

①教室ごとの避難経路について

→出火が予想される場所についても確認する。

避難の際に階段を利用する場合、上階から降りてくる学年が手すり側を通ることを周知する。

②訓練に臨む態度について（真剣、安全、敏速、静粛）

③避難の仕方について

→建物内では「押さない」「走らない」「しゃべらない」「戻らない」（お・は・し・も）を守って避難し、建物外に出たら駆け足で避難すること。

(2) 訓練の流れ

時刻	主な流れ	生徒の動き	担任（教科担任）の動き	その他の教職員の動き	備考
14:30	帰りの会 開始	・通常通り帰りの会を実施する。	・各教室で授業を行う	・各自の業務に当たる	
14:33	火災発生	・教師の指示が聞こえるように静粛にする	・担任(教担)は、火災報知機の鳴動を受け、トランシーバーで生徒の状況を報告する。(教室にいる人数等)	・養護教諭が発見し、周囲に知らせるとともに、火災報知機を鳴らす。 ・職員室内の教職員は火災の知らせを受けて初期消火を開始する。 ・確認した教職員が、南校舎1階で出火していることを教頭と校長に報告 ・教頭は出火の知らせを受け、教職員に以下の指示を出す。 →火災報知機の鳴動 →119番通報 →放送により全校生徒・教職員に指示をだすこと。 →校舎内の検索を行うこと	※担任からの報告で所在不明の生徒がいる場合、職員室内の教職員が検索に向かう(教頭指示)

14:34	緊急放送Ⅰ	校舎内で火災が発生した模様です。現在状況を確認しています。指示があるまで待機しなさい。（教務）			
		・担任(教担)の指示を受け、次の指示があるまで静粛に待機する。	・生徒に待機を指示する ・出入口付近の生徒に扉を開けて逃げ道を確保するよう指示する。 ・窓付近の生徒に窓を占めて外気が入らないよう指示する。 ・生徒が不安にならないように声掛けをしたり、生徒の様子を観察したりする。	・職員室に参集する。 ・教頭の指示により、初期消火応援や検索等を行う ・初期消火に向かった職員は、出火場所の状況を本部に報告する（トランシーバー） ・校長は屋外への避難が必要と判断し、全校への避難指示を命じる。 ・教頭は教職員に以下の指示を出す。 →教護端を持って校庭で避難場所を明示すること →全校に避難指示を出すこと（放送） →避難経路に待機し、生徒を誘導すること	
14:36	緊急放送Ⅱ 避難指示	調理室から出火した模様です。校舎全域に延焼の恐れがあるため、校庭へ避難しなさい。（教務）			
		・教師の指示に従い校庭に避難する。 →ハンカチや袖口等で口や鼻を押さえる。 →校舎内は「押さない」「走らない」「しゃべらない」「もどらない」	・生徒に落ち着いて避難するよう指示を出し、校庭まで先導する。 →教室内に残留生徒がいないことを確認し、出入口の扉を閉め、出席簿を持って避難する。	・養護教諭は、避難場所が分かるように校庭で旗を掲げて待つ ・教務主任は携帯型無線電話と非常持ち出し袋を持って避難する ・他の教職員は避難経路において生徒の避難誘導を行う ・教職員への指示後、校長・教頭は避難場所へ向かう	
14:40	避難完了 訓練終了	・教師からの指示が通るように、学級ごと静粛に座って待機する。	・避難完了後、生徒数を確認し、学年主任へ報告する。 〔報告順〕 担任→学年主任→教頭→校長	・教頭は不明の生徒がいた場合には校長へ報告し、教職員に検索の指示を出す。 ・教頭は学年主任からの報告完了後、避難完了を校長へ報告する。 ・避難完了後、教頭は校長の指示の下、教職員を集め、生徒の様子や被害状況等についての確認をする。	
14:42	全体指導 指導講評① 指導講評②	・消防署の方の話を聞く。 ・校長先生の話を聞く。		・防災担当は全体に整列指示を出し、全体指導を始める。	①消防署員から ②校長から
14:48	移動 体験学習等	火災に関わる体験活動実施			
15:15	振り返り	・教室に戻り、振り返りをする。	・事後指導を行い、アンケートを実施する。		後日詳細提示

- (3) 事後指導…学級へ戻ってから訓練について振り返り、下記の点について確認・指導する。
 ①避難の仕方について振り返る（「お・は・し・も」は守られたか。避難経路に危険な箇所はなかったか。）
 ②今後の訓練や実際の避難時の課題等について考えさせる。

6 係分担

(1) 事前・事後

計画・準備	防災主任
渉外	教頭、防災主任（消防署との打ち合わせ等）
アンケート準備	防災主任
雑巾準備	保健給食委員

(2) 避難時

避難の判断	校長
避難等の指示	教頭
119番通報	主事
生徒誘導	学級担任（教科担任）
初期消火	増、用務員、空き時間の教職員
非常持ち出し袋、無線型携帯電話持出	教務主任
救護、計時	養護教諭
全体会整列指示、司会	防災担当
体験活動進行	学年主任（予定）

【石巻市総合防災訓練】

1 目 的

- (1) 健康で安全な生活のため、非常災害時においても、冷静・沈着・適切な判断力により、敏速に行動できる態度を身に付ける【自主】
- (2) 生命の安全を第一と考え、家族や地域住民と声を掛け合って避難したり、避難所等で自ら役割を見つけて活動したりしようとする意識を高める。【敬愛】
- (3) 学校以外の場所で災害に遭っても、訓練を生かして適切な避難行動を選択できる素地を養う。【健康】

2 期 日 令和7年11月9日（日） ※登校日

3 対 象 全生徒、教職員

4 災害想定 市の想定に準ずる

5 実施計画（詳細は後日提示）

(1) 避難訓練：生徒登校後、地震・津波を想定とした三次避難（垂直避難）までの訓練を実施。

- ① 居住地ごとの避難場所、訓練場所について確認する。
- ② 登校日であり、全生徒が自分の居住地区の訓練に参加することを確認する。
- ③ 第1ステージでは、自宅から居住地区の訓練に参加することを確認する。
- ④ 訓練に臨む態度について確認する。（学校外での災害が発生した場合の避難の仕方を考える機会となるため、真剣に参加すること。）
- ⑤ 中学生としての役割を積極的に行うこと。（小学生の世話、避難所設営・運営等）

(2) 訓練の流れ

① 災害発生～第1ステージ…居住地区の訓練に参加

※教職員は学校で一次避難訓練後、「学校開放訓練班」と「生徒居住区の訓練状況確認班」とに分かれて活動する。

(学校開放訓練班)		(地区訓練確認班)	
1	訓練地震発生		
2	一次避難 → 学校で身の安全を確保する行動を取る		
3	学校開放訓練→避難所開設の様子を見学	3	各地区へ移動→生徒の訓練参加状況を確認

② 第一ステージ終了

→地区での防災活動がある生徒はそのまま地区の活動に参加

→地区での活動が無い生徒は、9時30分を目安に登校し、学校での防災学習を行う。

③ 訓練の振り返り（事後指導）

④ 防災学習…学年ごとに防災に関連する学習を行う。

(3) 事後指導…訓練について振り返り、以下の点について確認と指導を行う。

- ① 真剣に取り組むことができたか。
- ② 地区の訓練において、中学生としての役割を果たすことができたか。（どのような活動をしたか）
- ③ 学区外で災害に遭った場合に、どのような行動をとらなければならないか。
→気付いたことや感じたことなどをワークシートにまとめる。

ショート訓練

【部活動時 地震想定訓練①】

1 目 的

- (1) 健康で安全な生活のため、非常災害時においても、冷静、沈着、適切な判断により、敏速に行動できる態度を身に付ける。【自主】
- (2) 生命の安全を第一と考え、統制の取れた集団行動で避難できるようにするとともに、災害の恐ろしさについての認識を深め、自助、共助、公助の精神を養う。【敬愛】
- (3) 部活動中に災害が発生した場合の避難の仕方を理解し、災害時に備えられるようにする。【健康】

2 期 日 令和7年4月23日(水) 部活動時 12月10日(水) 部活動時

3 対 象 全生徒、教職員

4 災害想定 後日提示

5 実施計画 (詳細は後日提示)

【清掃時 大雨・洪水想定避難訓練】

1 目 的

- (1) 最大規模の降雨の場合、旧北上川の氾濫浸水想定区域にあることを理解し、非常時においても、冷静、沈着、適切な判断により、敏速に行動できる態度を養う。【自主】
- (2) 避難訓練や防災活動を通して、自他の生命を大切にすることを考え、適切な判断や行動ができる態度を養う。【敬愛】
- (3) 危険を予測して回避する能力や、安全な生活に貢献できる資質や能力を養う。【健康】

2 期 日 令和7年7月4日(金) 清掃時(12:55~)

3 対 象 全生徒、教職員

4 災害想定 後日提示

5 実施計画 (詳細は後日提示)

【休憩時 地震想定避難訓練】

1 目 的

- (1) 健康で安全な生活のため、非常災害時においても、冷静、沈着、適切な判断力により、敏速に行動できる態度を身に付ける。【自主】
- (2) 生命の安全を第一と考え、統制の取れた集団行動でひなでできるようにするとともに、災害の恐ろしさの認識を深め、自助や共助、公助の精神を養う。【敬愛】
- (3) 休み時間中に災害が発生した場合の避難の仕方を理解し、災害時に備えられるようにする。【健康】

2 期 日 令和8年2月10日(火) 2・3工事の間の休憩時間に実施

3 対 象 全生徒、教職員

4 災害想定 後日提示

5 実施計画 (詳細は後日提示)

【原子力災害想定避難訓練】

1 目 的

- (1) 健康で安全な生活のため、非常災害時においても、冷静、沈着、適切な判断力により、敏速に行動できる態度を身に付ける。【自主】
- (2) 生命の安全を第一と考え、統制の取れた集団行動で避難できるようにするとともに、災害の恐ろしさの認識を深め、自助や共助、公助の精神を養う。【敬愛】
- (3) 原子力災害発生時の避難の仕方を理解し、学校以外の場所で災害に遭っても、訓練を生かして適切な避難行動を選択できる素地を養う。

2 期 日 令和8年1月20日(火) 放課後(14:30~)

3 対 象 全生徒、教職員

4 災害想定 (詳細は後日提示)

【原子力災害対応避難訓練】

1 目 的

- (1)健康で安全な生活のため、非常災害時においても、冷静、沈着、適切な判断力により、敏速に行動できる態度を身に付ける。〔自主〕
- (2)生命の安全を第一と考え、統制の取れた集団行動で避難できるようにするとともに、災害の恐ろしさの認識を深め、自助や共助、公助の精神を養う。〔敬愛〕
- (3)学校以外の場所で災害に遭っても、訓練を生かして適切な避難行動を選択できる素地を養う。〔健康〕

2 期 日 令和8年1月20日(火) 放課後(14:30～)

3 対 象 全生徒、教職員

4 災害想定

令和8年1月20日(火)14時35分、宮城県沖を震源とする震度6弱の地震が発生。津波注意報等は発表されなかったが、女川原子力発電所において重大な事故が発生し、「警戒事態」となり、屋外退避を要する状況となった。

5 実施計画

(1)事前指導…以下の点について学級で指導・確認をする。 ※12/10(火)の防災タイム活用

- ① 湊中学校は、女川原子力発電所から半径30Km 県内(UPZ)に位置していること。
- ② 原子力災害発生時の避難の仕方について確認する。
→原子力事故発生時は、速やかに屋内退避をし、場合によっては集団避難(一時移転)をする場合があること。※一時移転の場合、湊地区は大崎市へ。
- ③ 一時移転の必要が生じた場合は原則保護者へ引き渡すこと。
- ④ 原子力災害について、想定される被害について確認する。

(2)訓練の流れ

時刻	訓練の流れ	生徒の動き	教職員の動き	備考
14:30	帰りの会 開始	・ 通常通り帰りの会を始める。	・ 担任は通常通り授業を行う。 ・ 担任以外の教職員は、通常通りの業務を行う。	
14:35	地震発生 緊急放送Ⅰ 一次避難	緊急地震速報 担当：教務 ・ 一次避難 →机の下に隠れ、揺れが収まるのを待つ。 教師の指示が届くように静粛にする。	・ 担任は、生徒に一次避難の指示を出し、自身の安全を確保する。揺れが収まったら避難口を確保する。 ・ 担任以外の教職員は、身の安全を確保する。揺れが収まったら、職員室へ参集し、教頭の指示のもと、分担して校舎内外の安全確認と、生徒の検索等を行う。 ・ 主事は防災ラジオを付ける。	検索担当 4階：1学年 3階：3学年 2階：2学年 1階：4学年
14:38	緊急放送Ⅱ 原子力事故発生	・ 授業再開	・ 主事は、原子力事故が発生したことを教頭に報告する。(防災ラジオから情報収集) ・ 教頭は校長へ報告し、指示を仰ぐ。 ・ 校長は、教頭に、放送で屋内退避・引き渡しの指示を出すよう指示する。 ・ 教頭は、校長の指示を受け以下の指示を教職員に出す。 →全校放送で屋内退避及び保護者引き渡しの準備を指示すること。 →トレーニング室で保護者引き渡しの準備を行うこと。 →残っている生徒がいらないか校内の検索を行うこと。	
14:40	緊急放送Ⅲ 屋内退避 引渡し準備	女川原子力発電所において事故が発生しました。「警戒事態」となったため、直ちに屋内へ避難しなさい。保護者引き渡しを行いますので、生徒の皆さんは帰りの準備をしなさい。 放送：教務 ・ 担任の指示のもと、屋内退避及び帰りの用意をする。 ・ トレーニング室へ移動し、保護者引き渡しに備える。	・ 担任(教科担任)は、生徒に屋内退避を指示する。 →外で活動した場合は、直ちに屋内へ誘導し、手洗い、うがいを指示する。	

14:38	緊急放送Ⅱ 原子力事故発生	校舎内外の安全を確認した結果、先ほどの地震による校地内の危険はありません。津波注意報等も発表されなかったため、教師の指示に従い活動を再開しなさい。放送：教頭 ・授業再開	・主事は、原子力事故が発生したことを教頭に報告する。(防災ラジオから情報収集) ・教頭は校長へ報告し、指示を仰ぐ。 ・校長は、教頭に、放送で屋内退避・引き渡しの指示を出すよう指示する。 ・教頭は、校長の指示を受け以下の指示を教職員に出す。 →全校放送で屋内退避及び保護者引き渡しの準備を指示すること。 →トレーニング室で保護者引き渡しの準備を行うこと。 →残っている生徒がいらないか校内の検索を行うこと。	
14:40	緊急放送Ⅲ 屋内退避 引渡し準備	女川原子力発電所において事故が発生しました。「警戒事態」となったため、直ちに屋内へ避難しなさい。保護者引き渡しを行いますので、生徒の皆さんは帰りの準備をしなさい。放送：教務 ・担任の指示のもと、屋内退避及び帰りの用意をする。 ・トレーニング室へ移動し、保護者引き渡しに備える。	・担任(教科担任)は、生徒に屋内退避を指示する。 →外で活動した場合は、直ちに屋内へ誘導し、手洗い、うがいを指示する。 →窓側にいる生徒にカーテンを閉めるよう指示する。 →帰りの用意を指示し、トレーニング室へ誘導する。 ※出席簿持参。生徒が残っていないか確認し、確認後は教室の扉を閉める。 ・学年主任、養護教諭はトレーニング室へ移動し、引き渡しの準備をする。 →3学年主任は職員室から非常災害用カードを持ってトレ室へ移動する。 →1・2学年主任はトランシーバーを持ってトレ室へ移動する。 ・副担任と用務員は、逃げ遅れた生徒がいらないか各階の最終確認を行う。 ※検索(分担)指示：教頭 ・教務主任は、保護者に引き渡しのメール配信を行う。 ・校長、教頭、教務主任、主事は、職員室に本部を設置し、情報収集と保護者からの連絡対応等を行う。 ・担任はトレーニング室へ移動後、生徒の人数を確認して学年主任へ報告する。 [報告順] 担任→学年主任→教頭→校長	※学年主任から教頭への報告はトランシーバーを使用する。
15:00	訓練終了	・トレーニング室へ移動後、学級ごとに静かに整列し、教師からの次の指示を待つ。	・教頭は、訓練終了を指示する。 ・校長は、トレーニング室へ移動する。 ・学年主任は、教頭の指示を受け、訓練終了を告げる。	※トランシーバーで学年主任へ指示する。
15:02	全体指導 指導・講評	・校長先生の話聞く。	・トレーニング室で全体指導を行う。 →司会：防災主任 指導講評：校長	
15:10	全体指導終了 部活動開始	・訓練について振り返りを行う。	・全体会終了後、学年ごとに解散し、部活動を開始する。	

(3)事後指導(翌日の読書タイムに行う)

- ①訓練についての振り返り
- ②訓練についてのアンケート実施
- ③保護者引き渡しについての確認

【保護者引渡し訓練】

1 目 的

- (1) 訓練を通して非常事態に発生する危険について理解し、安全を確保するための基本的な行動や避難の仕方を身に付けられるようにする。【自主】
- (2) 生徒の事故防止のため、具体的な実践を通して生徒の生命と身体の安全が図れるようにする。また、生命の安全を第一と考え、統制の取れた集団行動で避難できるようにするとともに、自助や共助、公助の精神を養う。【敬愛】
- (3) 安全を確保するための基本的な行動の仕方を身に付けるとともに、保護者引渡しの手順を理解し、緊急時に備えられるようにする。【健康】

2 期 日 令和7年6月10日(火) 6校時終了後～放課後

3 対 象 全生徒、教職員

4 訓練想定

令和7年6月10日(木)昼、吉野町のコンビニエンスストアに刃物を持った強盗が侵入し、現金を奪って逃走した。警察による捜査が進められているが、14時現在逮捕には至っていない。生徒の安全を確保するため、近隣の学校と協議して保護者引き渡しでの下校を決定した。

5 実施計画

(1) 事前準備

- ①保護者へ引き渡し訓練についての通知…4/13(土)学年PTA懇談会時
- ②保護者参加等確認…4/16(月)文書配布 → 5/9(木)締め切り

(2) 事前指導…以下の点について指導・確認する。

- ①保護者引き渡しまでの流れと生徒の待機場所について

(3) 訓練の流れ

時刻	主な流れ	教職員の動き	生徒の動き	備考
14:10	保護者へメール配信 ※引渡し訓練の確認事項	・eメッセージで、引渡し訓練の実施と、生徒引取の協力について保護者に連絡する。【教頭】 ※16時までにはトレ室へ迎えにきていただくこと。 ※時間までに引取できない場合は、学校へ連絡していただくこと。 ・教頭、事務、教務主任は、保護者からの電話対応。引取に來られない家庭を確認し、生徒名簿へ記録する。※15時まで		
15:10	学年主任へ引渡し名簿配布	・教務主任は、保護者からの連絡状況等を記入した「引渡し名簿(非常災害用カード)」を学年主任へ渡す。		
15:20	帰りの会 校内放送(緊急連絡)	・担任は帰りの会の指導を行う。 →引き渡しの流れて待機場所の確認も行う。 ・教務は緊急放送をする。 訓練です。 連絡します。付近のコンビニエンスストアに強盗が侵入し、現在逃走中のようです。生徒の安全を確保するため、本日は保護者引き渡しでの下校とします。 担任は帰りの用意をさせ、生徒をトレーニングルームへ誘導しなさい。生徒の皆さんは、担任の先生の指示に従ってトレーニングルームへ移動しなさい。	・帰りの会を行う。	
15:25	引渡し場所へ移動 学年ごと整列	・学年主任はトレ室へ移動し、引渡しの準備をする。 ・担任はトレ室へ生徒を誘導し、整列させる。 ・担任は、トレ室へ移動後、生徒数を学年主任へ報告する。 ・学年主任の代表1名は、生徒整列完了をトランシーバーで本部へ報告する。 ・本部待機の教職員は、保護者からの連絡や引き渡しの緊急事態に備える。 ・用務員等は、保護者の車を誘導する。(担任も引き渡し確認を行いながら、可能な限り車を誘導する)	・トレ室へ移動し、保護者等の引取りを静粛に待つ。	

不審者対応訓練 実施計画

1 目 的

- (1) 校地内不審者侵入時の校内放送や教師からの指示を理解し、非常時においても、冷静、沈着、適切な判断により、敏速に行動できる態度を身に付ける。【自主】
- (2) 生命の安全を第一と考え、統制の取れた集団行動で避難できるようにするとともに、自助や共助、公助の精神を養う。【敬愛】
- (3) 安全を確保するための基本的な行動の仕方を身に付け、非常時に備えられるようにする。【健康】

2 期 日

令和7年8月28日(木) 放課後〔14:30～15:20〕

3 対 象

全生徒、全職員

4 訓練想定

令和7年8月28日(木)14時35分、不審者らしき人物がテニスコート側の西側フェンスを越えて校地内へ侵入。職員室にいる教職員が対応し、校舎内への侵入を阻止しようとしたが、不審者らしき人物は気を荒げて一向に引く様子はない。そのため、対応した教職員1名が教頭へ異常事態を報告。教頭は報告を受け、校長の指示で教職員及び生徒に異常事態を知らせ、避難の指示を出した。

5 実施計画

- (1) 事前指導…以下の点について指導、確認する。
 - 1 不審者に遭遇した場合の対処の仕方について(不審者との距離の取り方や声の出し方等)
 - 2 学校に不審者が侵入した場合の避難場所や避難方法について(不審者から遠ざかるように逃げ、外への逃げ道を確保できるようにする。)※北校舎奥(非常階段、非常口)、南校舎東側(非常口)、講堂(外階段)
 - 3 放送を静かに聞くことの必要性和緊急時の放送について
 「連絡します。本日の生活科の授業は中止とします。」⇒不審者侵入の合図
 「トナミ先生、至急〇〇〈侵入場所〉へお出でください。」⇒〇〇は侵入場所を指す言葉
 「生徒は臨時の集会を行いますので、△△で待機(移動)しなさい。」⇒△△は避難場所を指す言葉

4 訓練の流れについて

(2) 訓練の流れ

時刻	主な流れ	教職員の動き	生徒の動き	備考
14:30	帰りの会を行う。	・担任(教科担任)は帰りの会を始める。その他の教職員も通常通り業務に当たる。	・帰りの会に臨む。	
14:35	不審者確認 ・不審者と思われる人物がテニスコート側の西側フェンスを越えて校地内へ侵入し、不審な行動をとる。 ・職員の対応に気を荒げる。	・職員室にいる教職員が、校庭にいる不審者を発見する(安全担当)。 ・教頭は、不審者に複数で対応するよう指示を出す(教職員が対応へ行く)。 →不審者は気を荒げ、教職員が対応に苦慮していることを教頭へ報告(トランシーバーで連絡)。 ・教頭は報告を受け、職員室にいる教職員に校舎内へ入れずに対応に当たるよう指示を出す。 →その後、校長に報告し、指示を仰ぐ。 ・校長は報告を受け、警察への通報と全校		不審者役(警察署の方) ・対応に向かう教職員はトランシーバー又は携帯電話を持つ。

I-9 学校安全研修計画〔令和7年度〕

月	学校行事	防災タイム	避難訓練等	学校安全に関する点検等	職員研修	評価等
4	・着任式 ・始業式 ・入学式 ・学習参観、PTA総会 ・家庭訪問	○「防災学習」について →防災学習の意識について知る →災害・緊急時の「避難行動」と「避難場所」について確認する ・石「学校の安全対策」p16 →避難訓練時の確認、避難場所確認等	・避難経路確認(1年) ・シヨート訓練 (地震：部活動時)	・校内安全点検 ・学校防災マニュアル確認 ・通学路、避難経路確認 ・学区内危険箇所点検 ・通学路点検 ・備蓄倉庫点検	学校安全マニュアルの確認 学校安全年間計画の確認 半固定無線装置の操作方法確認	アンケート実施 ※1年経路確認
5	・生徒総会 ・運動会 ・体力テスト ・小・中連携授業参観	○地震・津波に備えて① ※6月避難訓練の事前学習を兼ねる →学校での地震への備えや避難行動について考える ・宮「地震災害への備え」p20～ ・石「学校にいるときに…」p17～	・避難訓練(地震・津波)	・校内安全点検 ・生徒校内安全点検	緊急地震速報受信機の取り扱いについて	アンケート実施 ※引渡し訓練 シヨート訓練
6	・地区中総体 ・地区陸上競技大会 ・1学期末考査	○地震・津波に備えて② →家庭や地域での地震への備えや避難行動について考える ・宮「津波災害への備え」p22～ ・石「こんな場所で地震が起きたら」p19「我が家の地震対策」p21「災害に備える」p23	・保護者引渡し訓練	・校内安全点検	心肺蘇生法研修 AED使用法研修	アンケート実施 ※地震・津波対応訓練
7	・地区駅伝大会 ・授業参観 ・1学期終業式 ・県中総体 ・三者面談(全学年)	○大雨・洪水災害に備えて →大雨で予想される危険や避難行動等について考える →防災気象情報や警戒レベル等について知る。 ・宮「大雨・突風など…」p25 ・石「大雨・洪水・雷」p29～ ※重ねるハザードマップ提示	・交通安全教室 ・シヨート訓練 (大雨洪水：清掃時)	・校内安全点検 ・生徒校内安全点検		アンケート実施 ※不審者対応訓練 交通安全教室 シヨート訓練
8 ・ 9	・2学期始業式 ・修学旅行(3年) ・地区新人大会 ・小中連携地域清掃	○もしもの時の備え① →正しい情報収集の大切さについて考える ・宮「災害時に陥りやすい…」p31	・不審者対応訓練	・校内安全点検 ・通学路点検 ・学区内危険箇所点検 ・生徒校内安全点検(9月)	防災主任研修会伝講	学校安全マニュアル点検、見直し アンケート実施 ※シヨート訓練
10	・文化祭 ・生徒会役員選挙	○火災を防ぐ ※10月避難訓練の事前学習を兼ねる →火災の予防や火災発生時の対応、避難行動について考える ・石「火災」p27～	・避難訓練(火災)	・校内安全点検		アンケート実施 ※火災対応訓練
11	・2年職場体験学習 ・2学期末考査 ・教育相談(全学年)	○もしもの時の備え② →災害時に自分たちに行きとけることについて考える ※市総合防災訓練の振り返り兼ねる ・石「私たちにできること」p41 ・宮「避難者の一員として」p34	・石巻市総合防災訓練	・校内安全点検 ・生徒校内安全点検		アンケート実施 ※市総合訓練
12	・1年社会人の話を聞く会 ・授業参観 ・2学期終業式	○原子力災害に備えて →原子力事故発生時の対応と避難行動について考える →原子力事故発生時の避難場所を知る ・石「原子力災害」p35～ ※石巻市広域避難計画も参照	・シヨート訓練 (地震：部活動時)	・校内安全点検	防災主任研修会伝講 防災フォーラム伝講	アンケート実施 ※シヨート訓練
1	・3学期始業式 ・私立高校入試	○災害後の生活 →災害後の心のケアについて考える →ライフラインの大切さについて知る ・宮「心の健康を保つために」p40 ・石「ライフラインの大切さ」p39	・原子力災害対応避難訓練	・生徒校内安全点検		アンケート実施 ※原子力災害
2	・私立高校入試 ・2年高校生の話を聞く会 ・入学説明会 ・学年末考査 ・3年授業参観 ・3年生を送る会	○「防災学習」を振り返って →今年度の防災学習や避難訓練について振り返る ・石「学校の安全対策」p16	・シヨート訓練 (地震：休憩時)	・校内安全点検		
3	・公立高校学力検査 ・卒業式 ・1・2年授業参観 ・修了式 ・1日入学 ・離任式		みやぎ鎮魂の日(登校日)	・校内安全点検 ・生徒校内安全点検		アンケート実施 ※防災学習について 学校安全マニュアルの点検・見直し

